

松下幸之助記念財団 研究助成

## 研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】井手上 和代

【所属】(助成決定時)

神戸大学大学院国際協力研究科

【研究題目】

モーリシャスの工業化と資金調達に関する研究

- 製糖業の発展と金融における役割に注目して -

【研究の目的】(400字程度)

モーリシャスは、1970年の輸出加工区(Export Processing Zone: 以下、EPZ)の設置を契機として、それまでの砂糖依存の経済から脱却し繊維・衣料産業を主軸に輸出主導の経済発展を遂げた、アフリカ諸国の中でも特異な国として知られる。モーリシャスにおける砂糖生産はフランス統治下の1740年代に開始され、奴隷貿易の拡大とともに島の中心産業となっていく。砂糖生産の主体となった製糖企業はフランス植民地時代から続く特定のフランス系一族により経営・所有されており、その寡占状態は今日まで続いている。製糖業における資本の蓄積は工業化のための原資となったと推測されるが、既存の研究では、この地場資本が工業化に動員・利用されたのか否か、また移転されたとすればどのようなメカニズムを経て移転されたのかについては殆ど焦点が当てられてこなかった。以上を踏まえ、本研究の目的は、モーリシャスの在来産業である製糖業と工業化の関係性および、国内資本がどのような回路を通じて工業化に動員されていったのかを明らかにすることである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

工業化の為の資金調達は主に、政策的なものと市場を通じたものとに分けられるが、本研究では市場、すなわち金融システムを通じた資金移転に着目する。というのも金融システムには国内で生み出された富を動員し、資金を新産業に効率的に配分して持続的な経済発展に繋げていくという重要な役割が期待されるが、そのような資金移転のメカニズムについて考察することは、一次産品によって獲得した外貨をどのように工業化に繋げるかといった課題に直面する他のアフリカ諸国にとっても示唆を与えるものと考えられるからである。報告者によるこれまでのモーリシャス上場企業に関する予備的な調査によると、現在のモーリシャス経済をけん引する大企業の多くは製糖業起源のものが多く、彼らは砂糖生産のみならず製造業や観光、金融、不動産などに事業を多角化し資産規模を拡大していることが明らかとなった。一方、従来の製糖企業単独ではこのような新規事業へ進出するには生産技術やノウハウ、市場へのアクセス面で限界があったはずであり、それを可能にした背景には生産面で競争力を持った他者との連携があったと推測された。加えて、1800年代以降において砂糖農園主はモーリシャス商業銀行の経営にも従事していたことがわかった。このような銀行との長期にわたる関係は借手である製糖業に関する情報の非対称性を緩和し、製糖企業にとっては銀行からの資金調達が比較的容易であったと推測された。以上を踏まえて、1970年代以降、製糖業を営むフランス系地場資本が輸出指向型の外国系企業と連携して上記の技術等の欠落を補う形で、EPZにおける主軸である繊維・衣料産業への投資事業を展開

したとともに、工業化のための資金の一部分は金融システムを通じて移転されたと想定した。分析対象企業は、現地登記所での企業情報の閲覧制約もあり、ひとまず EPZ 設置直後の 1970 年から 1976 年までに設置された企業に絞られた。分析方法は登記所に提出された株主報告書、財務関連情報資料を用いて企業の所有構造と資金調達方法についての統計的な分析を行った。

#### 【結論・考察】（400字程度）

分析の結果、1976 年時点で EPZ に投下された総資本額のうち約 8 割は香港資本とモーリシャス資本によるものであった。モーリシャス資本のうち投資された資本額の半数近くはフランス系地場資本によるものであった。彼らの多くは、香港資本と合弁企業を設立しており、繊維縫製業に関し技術や市場アクセスに優位性を持つ香港資本と資本提携することで製造業進出への足掛かりとしたことがうかがえた。特に、フランス系地場資本家の持つ資金調達力は香港投資家にとって資本関係を築く上での魅力的な要素となり得ただろうと思われる。実際にそれら企業は銀行からの借入が比較的高い傾向にあることが分かった。補足的な調査として、大学研究者および EPZ 経営者に対し聞き取り調査を行ったところ、製糖起源のフランス系一族はモーリシャス経済全体において支配的な位置にあるとともに、富の大部分は今なお彼らのような一部の資本家に集中しているとの声も聞かれた。一方で香港資本との合弁企業設立の背景には中国系モーリシャス人によるネットワークを活かした資本誘致への尽力があったことも明らかとなった。つまり、中国系モーリシャス人がフランス系地場資本と香港資本を結びつける役割を担ったことを契機として民族を超えた資本提携が可能となり、製糖業の資本が直接金融と間接金融を通じて工業部門に移転されたことが明らかとなった。こうした知見は、国内で蓄積された資本の役割と外国資本の結びつきの重要性を強く示すものであると考える。一方で、金融の投資機会を平等化し富を分配するという公共的な役割についてモーリシャスは依然として発展途上であることが示唆された。